

第 10 回看護師のための認知症ケア講座

開催のご案内(オンライン講座)

《認知症ケア加算2・3該当研修》

後援 日本慢性期医療協会

共催 埼玉県病院団体協議会（日本医療法人協会埼玉県支部、日本病院会埼玉県支部、全日本病院協会埼玉県支部）

認知症高齢者は、2040年には約950万人に上ると言われ、認知症は誰もが身近な疾患です。超高齢社会を迎えた日本では、認知症についてこれまでのような慢性期医療での対応だけでなく急性期医療においても対応が必要とされており、医療・介護の従事者は全員、認知症ケアのプロであることが求められています。このような背景から、認知症ケア加算が設けられ、医療保険でも身体拘束廃止に向けての取り組みがようやく本格的に進められています。認知症は、医療関係者のみでなく地域としても対応しなければならないものですが、その要となるのは看護師の皆様です。本講座では、認知症の方の心に寄り添いながら、その人らしさを守る環境づくり、症状の悪化を予防するための具体的なアプローチを多職種チームで提供できるよう、看護師の皆様に焦点を絞った研修を行います。

本講座は認知症ケア加算2・3の病棟看護師の研修要件を満たした内容になりますので、奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

◆ 開催概要

- (1) 日 程 令和8年11月 6日（金）、 7日（土）
- (2) 場 所 WEB 開催（Zoom ミーティング・ブレイクアウトルーム機能利用）
- (3) 定 員 看護師100名（正看護師）
- (4) 参加費 会員10,000円、非会員18,000円
- (5) 申込方法 埼玉県慢性期医療協会 HP 内、下記専用申込フォームよりお申し込みください。
【埼玉県慢性期医療協会 HP <http://saitama-jamcf.com>】
テキスト類は別途郵送、参加案内・参加費請求書などを適宜送付致します。
- (6) 締切日 令和8年10月 3日（土）（定員に達し次第締め切りとさせていただきます）
- (7) 連絡先 〒356-0051 埼玉県ふじみ野市亀久保 2197 富家病院内
埼玉県慢性期医療協会事務局 TEL049-264-8811 Fax049-264-8777

※ 本研修は診療報酬上の「認知症ケア加算2・3」の加算要件に該当します。

※ 本研修に参加された方には当協会より修了証書を発行いたします。

（遅刻・早退・中抜けなどがある場合は修了証書を発行いたしかねます。）

※ 参加者一人ごとに1台のパソコン（有線LAN接続必須）をご用意ください。

（受講に支障が生じやすいためスマホでの受講は不可です。）

◆ オンライン講座中の在席確認のため、お申し込み時受講者の顔写真の添付をお願い致します。

◆ プログラム《 1 日目 》 令和 8 年 11 月 6 日（金）

9：55～10：00	開講挨拶
10：00～12：20 うち講義 60 分 演習 70 分 休憩 10 分	行動・心理症状（BPSD）、せん妄の予防と対応法 （演習含む） ＊講師：富家隆樹（富家病院 理事長） 認知症の人をケアする上で一番の問題とも言えるのは、BPSD、せん妄等であろう。しかし、それは認知症の人にとっての問題ではなく、周囲にとって大きな問題であるのかもしれない。ケアのレベルアップによって、これらの問題はどうか変わっていくのかを考えよう。 （演習）参加者各自がBPSD、せん妄の対応の困難事例についてディスカッションを通して考える（ブレイクアウトルーム機能使用）
12：20～12：50	昼食
12：50～14：20	認知症の原因疾患と病態・治療 ＊講師：丸木雄一（社会福祉法人シナプス 理事長） 看護師も医師とともに、認知症の症状を引き起こす原因疾患に向き合うことが認知症ケアの基本となる。認知症の予防や治療により進行を遅らせることも含め、認知症疾患そのものを知ろう。
14：20～14：30	休憩
14：30～16：00	認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援 ＊講師：田中圭一（医療法人笠松会 有吉病院理事長） 身体拘束が認知症の人に与える影響、エンドオブライフの意思 確認など、患者、家族の視点に立ちサポートすることを考えよう。

《 2 日目 》 令和 8 年 11 月 7 日（土）

10:00～12:30 うち講義 60 分 演習 80 分 休憩 10 分	入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術（演習含む） ＊講師：小泉則子（永生病院 認知症看護認定看護師） 認知症の人に適切な看護を提供する為には、そのファーストステップとして、アセスメントを基にケアプランを立てることが必要であろう。そのために知っておかなければならない事、見落としはならないことは何かを考えよう。 （演習）認知症のある患者の実際の様子をビデオを用いて数症例提示し、症例のアセスメントを提示し、その患者に対するアセスメントの情報として求められているものは何か、また、必要な援助技術は何かを考える。
12：30～13：00	昼食
13：00～15：30 うち講義 30 分 演習 80 分 休憩 10 分 まとめ 30 分	コミュニケーション方法及び療養環境の調整方法 （演習含む） ＊講師：小泉則子（永生病院 認知症看護認定看護師） どのように認知症の人とコミュニケーションをとればよいのか。その人が暮らしてきた生活環境を大切に、施設内での環境、あるいは地域での環境を整え、より穏やかに過ごしてもらうことを考えよう。 （演習）重度認知症の困難症例を提示し、コミュニケーションのとり方、医療チームでの対応の仕方などをディスカッションを通して考える。
15：30	閉講